

ともに生き、ともにはたらく～

ツナギナオス

「協同による新しい日常」

# 2021協同集会in東海



全体進行 中野京子（生活クラブ生協あいち）

10:00	「今、私たちは」 藤井 恵里（愛知W.Co連合会）	12:00	休憩 13:00まで
10:10	「協同による新しい日常とは」 向井 忍（地域と協同の研究センター）	13:00	「つながる力と多様性」 向井 清史（名古屋市立大学大学院特任教授）
10:30	クロストーク①「つなげる力を育む」 【ファシリテーター】 ・岡田 俊介（ワーカーズコープ） ・小林 啓示（ワーカーズコープ）  【報告・発言】 ・藤澤 秀機（マルベリークラブ中部） ・森川 美保（季の野の台所） ・小楠 修平（ワーカーズコープ） ・橋本 吉広（地域における子どもの学びの支援共同研究会） ・熊崎 辰廣（岐阜農民連） ・菱川 智恵（子宝のさと） ・向井 忍（地域と協同の研究センター）	13:20	クロストーク②「多様性をいかに」 【ファシリテーター】 ・藤井 恵里（愛知W.Co連合会） ・神田 すみれ（地域と協同の研究センター）  【報告・発言】 ・神田 すみれ（地域と協同の研究センター） ・岡田 俊介（ワーカーズコープ） ・熊崎 辰廣（岐阜農民連） ・荻野 直人（わっぱの会） ・山田 れいな ・山口 晋一（やまがたフットパス実行委員会）
		14:50	「これからの向けて」 岡田 俊介（ワーカーズコープ）
		15:00	閉会

主催：2021協同集会in東海実行委員会

後援：愛知県、三重県、名古屋市、瀬戸市、尾張旭市、日進市、長久手市、小牧市、知多市、岩倉市、豊田市、中日新聞社

協賛：愛知県高齢者生活協同組合、NPO法人わっぱの会、生活クラブ生活協同組合あいち、南医療生活協同組合、特定非営利活動法人ワーカーズコープ東海事業本部、日本社会連帯機構東海地方委員会、生活協同組合コープあいち、生活協同組合コープぎふ、生活協同組合コープみえ、愛知ワーカーズ・コレクティブ連合会

開会挨拶

# 2021 協同集会in東海

ともに生き、ともにはたらく

ツナギナオス  
「協同による新しい日常」

実行委員  
愛知ワーカーズ・コレクティブ連合会  
藤井恵里

## いま、私たちにできること

### コロナ禍で孤立や分断が深刻化

新型コロナウイルス感染のパンデミックは、これまで社会に潜在していた課題をさらに深刻に、そして表面化させています。多くの人々が仕事を失い、格差や貧困は増大し、命までもおびやかされています。失ったものは、将来の夢や、やりがいのある仕事だけでなく、社会や地域に対する信頼関係さえもみるみる失われ、逆に、将来への不安や絶望、失業や不安定雇用、社会や地域に対する不信感が上回り、特に、若者や女性への影響が大きく、孤立や分断は深刻さを増し生きづらさは加速する一方です。

もともと潜在していた社会の弱さ、つながりの脆弱性がコロナで露になり、あったはずのツナガリがあつという間に解けてしまったかのようです。

むしろ、ツナガッていたつもりだけだったのかもしれない。

生産性を求める効率優先の資本主義の考え方は、人や地域や文化さえも同じ枠にはめ込む画一的な社会を生みだします。違い（多様性）があると規格外とされ、分断や排除の対象となります。

同調圧力が強まる要因にもなっているのではないのでしょうか。

そんな社会のありように抗い、  
自分らしく、人らしく生きていくためには

## いま、私たちにできること

規格外ではなく、それは多様性（みんなちがって、みんないい）

人々がもつ多様な力をどうツムギ、ツナギナオスことで、心豊かに暮らせる地域社会にしていけるかが問われています。

多様性を認め合い、互いに支え合い、たすけあう「協同の力」で、社会や地域との信頼関係を取りもどし 社会の構造を変え、市民自治の領域を拡げ、ともに生き、ともにはたらく豊かな地域社会づくりを進めていくことが大切です。

そんな中で、

2022年10月1日に「労働者協同組合法」が施行されます。

「生き方」を表すのに一番わかりやすい表現としての

「働き方」を考えるきっかけにしていきましょう。

## 「協同というの営みの中で」

協同組合はそもそも、同じ思いを持つ人々の集まり

（共通のニーズや願いを満たすために自発的に手を組んだ自治的な組織）



みんなで作った一定のルール（規範）の中で活動が行われ

信頼関係やネットワークが生まれます

この繋がりや関係性は「社会関係性資本（ソーシャルキャピタル）」として

組織の外でも大いに活用されることで

まち（地域社会）づくりがさらに進みます

## 10月1日施行 「労働者協同組合」

労働者協同組合は、働く人々の協同組合です。

集まった全員で、出資をし事業所のオーナーとなり、運営と労働に参加する協同労働といわれる働き方で、地域のニーズに応える事業を非営利で行い、持続可能で活力ある地域社会づくりを目的とします。そこに資本家は存在しません。生産手段も生産物も組合員の共有財として位置づきます。

現在、10月からの円滑な施行に向けて政令・省令・指針が検討されています。

また、公益性の高い法人としての税制措置のための法律の一部改正も検討されており、実現すれば、NPO法人並の優遇措置の対象となります。

所管庁は都道府県となっており、今後、相談窓口等設置される予定となっています。

また、3人以上の発起人で届出だけで設立でき、地域に根差す小さい単位の協同組合が簡便に設立され、複数の協同組合間の連携でさらに豊かな地域づくりが進むことが期待されます。

構想と実行を分離しない豊かな働き方の選択肢が広がります

# 2021協同集会in東海で考えたいこと

1. 協同集会in東海のこれまで
2. 2021実行委員会で話し合ってきたこと
3. 2021協同集会in東海のテーマ

## 実行委員会 地域と協同の研究センター 向井忍

### 1、協同集会 in 東海のこれまで

- 2014年9月 地域で発見。「協同ってなに？」  
人に出会い、つながり、協同する

記念講演「無縁社会・老人漂流社会をこえて～見いだす希望・絆」  
板垣淑子(NHKチーフプロデューサー)

- 2017年10月 ともに生き、ともにはたらく  
地域をつくり次世代へつなぐ

記念講演「病院もまちも、市民がつくる～おたがいさまのまちづくり」  
成瀬幸雄(南医療生協代表理事)

- 2019年9月 ともに生き、ともにはたらく  
未来へつなぐ協同の再発見 私たちに今、できることは

オープニングディスカッション  
「このまちで生きていく～くらす・はたらく・つながる明日～」  
新城市(八名)・各務原市(八木山)・豊田市(保見)

※労働者協同組合法の法制化をめざす、全国協同集会のプレ企画としてスタート。

※2017協同集会では、地域の実践を支える“協同のプラットフォーム”の必要性が話題に。

※実行委員会の場でも相互理解と協同を促進することが目標になる。

※全国集会のプレ企画から、東海地域のつながりを促進する協同集会に(隔年で開催)。

※2020年12月、「労働者協同組合法」が成立。

※2021年4月、協同ではたらくネットワークあいち”発足。

## 2、2021 実行委員会で話し合ってきたこと

新型コロナパンデミックが襲う中で

①あたりまえとしてきた、協同(人と人がつながる行為)が“困難”に。

②社会は、人と人のつながり(相互関係)で成り立っていた！

- 学びとは: 教わる側と教える側の相対する関係の中にある
- 医療とは: 患者とその家族、医師と専門職、地域住民で支え合う関係性が不可欠
- 介護とは: 一人ひとりの生活場をケアし、尊厳をまもっている
- 子ども食堂や学習支援とは: 第三の居場所として、関わる人のそれぞれに役割がある
- 生産・消費とは: つくりて、届ける人、使う人のコミュニケーションで成り立っている。

③誰が“便利な社会”を支えていたのか

- 農業現場を支えていた人が日本にいなくなると・・・
- 雇用が不安定になって真っ先に困難になる人たち  
アルバイト、派遣、契約、外国人留学生、海外ルーツの労働者などである。

## 新型コロナ以前からの“社会変化”が顕在化

### ●急速な少子化の進行

2000年 出生数119万人  
2021年 出生数80万5千人？  
▲32%

想定より7年早く進む

結婚・出産・子育ての困難  
コミュニティ・職場文化の多様化

### ●外国人労働者の受入

2000年 20.7万人  
2019年 165.9万人(2.2%)

### ●実質賃金の低下

1997年 = 100	
2016年	スウェーデン 138.4
	オーストラリア 131.8
	ドイツ 116.3
	アメリカ 115.3
	日本 89.7

中間層がなくなる 格差拡大  
オンライン化を促進 「高度人材」

### ●AI化(スマートホン世帯普及率)

2010年 9.7%  
2016年 71.8%

※新型コロナで明らかになった 社会の脆弱性  
低賃金構造で維持されていた働き方

家族をささえ、地域で育てる  
多様な人と文化を生かせる労働

### 3、2021 協同集会 in 東海のテーマ

ともに生き、ともにはたらく「**協同による**新しい日常」  
ツナギナオス

○日常を大切に。「新しい日常」をつくる協同＝ツナギナオス

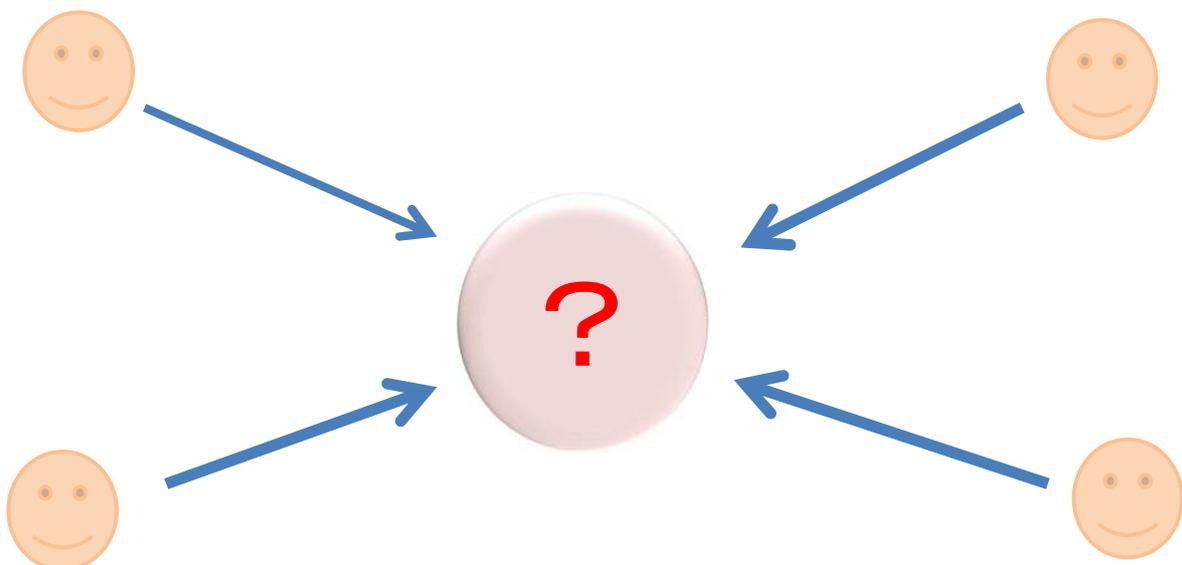
—私たちは(このまちで)生きていく。  
特別な誰かを待つのではない。

○環境の変化は、私たちの内側にも変化を生み出している。

—変化しつつある私たちが、ありのままの力を生かせるには。  
そのような社会/関係をつくる＝ツナギナオス協同。

## 各分科会の成果をもとに考える

### クロストーク



## クロストーク①「つながる力を育む」

—新型コロナの影響が集中した次世代に焦点をあてて、**つながるための協同**（ツナギナオスための課題）について語ります。

- 秋の自然・生活体験
- 学校給食をオーガニックに
- 高校生世代における学習等支援の現状と課題を探る
- 学生・若者と協同を学ぶ

## クロストーク②「多様性をいかす」

—地域と労働の第一線に焦点をあてて、ともに働き・**多様性をいかす協同**（ツナギナオシている実践）について語ります。

- 多文化背景をもつ人たちによる多様な取組みと協同がもたらす新しい社会
- はたらくってなに？～働くを語り合おう座談会
- 地域の中で働くー小さな協同の実践と仕事創り
- 福祉・医療ネットワークと地域共生社会

# 協同する ツナギナオスには何が必要か

## 「多様性とつながる力」

○“どれをツナグのか”

情報、選択肢、社会資源。

○“つなぎナオスことができる”

ヒント、補助線、生活を編集できる力。

今年10月に施行される「労働者組合法」は  
“ツナギナオス働き方”の道標。

# 多様性とつながる力

名古屋市立大学名誉教授 向井清史

## 1.何故「生きにくかったり」、「働きにくかったり」するのか

現在産業社会に存在する二重の画一化、標準化圧力

- ①市場経済の拡大：比較基準が価格という一つの基準に集約される＝評価の画一化
- ②機械（資本の現実態）化：コスト低減のため機械に置き換え＝必要とされる能力の画一化、標準化

標準化による物理的効率性アップ VS 個性的存在としての人間

人に合わせて機械が動くのではなく、機械に合わせて人は働くことを求められる  
＝自由に生きること（自己実現）と、物的に豊かになることを選択を迫られる。⇒雇われない働き方は、この関係から自立するひとつの選択肢（容易いことではない）

## 分断は、産業社会が多様性を取り込むための様式

- 標準化VS個性論理の延長線上に分断問題が生まれてくる。
- 産業社会の市場経済が自らにとって異質な多様性を飲み込もうとすると、分断、格差という様式をとる以外にない。
- 標準化条件を満たす小集団に分割（＝分断）したうえで、連結させる。⇒融合ではなく、モザイク的包摂
- 外国人労働者、農業、地方の問題（全て個性的）も同じ構図



市場が求める条件を満たさないものは周辺化される

## 2.自由に生きるということは、一人で生きていくことではない

- 一人でできることは限られる。

協同することで多面的能力が活かされ、開花する機会は多くなる。  
自己実現できる機会が広がる。



午後のテーマ：多様性を受け容れつつ、市場でも生き残れる  
「組織、働き方づくり」を学び合うこと

## 3.協働によって自己実現するには、自己決定（選択）力、自己編集力が前提になる。

協働労働を可能にするには、個人はそれに必要な能力を備えなければならない

＝受動的ではなく、主体的に課題を受け止める力



午前のテーマ：どのようにすれば、次世代にこのような能力を身につけさせられるかを学ぶ

個人に対して、これらの能力を社会的に保障することは人権の問題＝自己決定力を身に着けさせることは義務教育の最も重要なこと

- 2つの学び：選択肢を広げる学び→知識や技能の伝承

選択肢の中から自分に適したものを選び出す学び→自己の経験、取り巻く環境に対して固有の意味付け（整序化）を与え、それらの関係性を認識する能力＝経験編集力の涵養→学校外での様々な体験機会も含め、自ら判断力を養う機会を増やすことが必要